

「NPO法人 利尻ふる里・島づくりセンター」活動紹介／「利尻海藻押し葉」の独自文化と、資源蘇生のまちづくり推進へ

（一財）北海道開発協会は、地域活性化のモデルとなる市民団体等の活動を支援しています。

今回は、令和元年度助成活動団体「NPO法人 利尻ふる里・島づくりセンター」（理事代表：小坂実氏）の活動を紹介します。本団体は、利尻島に存在する資源の蘇生事業を行い、地域活性化を図るとともに新たな雇用の創出や、次世代を担う子どもたちが安心して暮らせる島の豊かな自然環境を守る活動に取り組んでいます。



利尻山の裾野に広がる利尻町市街地

日本最北端の地、稚内市から西方へ52kmの日本海上に位置する利尻島。平成30年8月、この地に天皇皇后両陛下がはじめて訪れました。このご訪問を記念して、「利尻海藻押し葉 “藻花の郷”」が両陛下に献上されました。利尻海藻押し葉は、島の魅力発信の素材で

あり、「利尻ふる里・島づくりセンター（以下、「センター」という。）」が設立時から積極的に取り組んできた事業です。作品の献上を契機に、島の独自文化を全国にPRしようと全国規模のコンクール開催が企画され、当協会の地域活性化活動助成を活用して、令和元年7月から「利尻海藻押し葉押し花融合コンクール」が実施されました。

同センターは、利尻町杓形商店街の島の駅「海藻の里・利尻」を活動拠点としています。建物は、明治24年頃に海産問屋カネジョウ渡邊商店として開業したもので、島の中でも最も古い歴史ある建造物です。約130年の風雪に耐えてきたものの老朽化も著しかったので、資源蘇生のまちづくりをコンセプトとする同センターが構成員の労力提供により改修しました。

島の駅は、海藻アートのギャラリーなど、島の文化や歴史など情報発信の場となっているほか、利尻海藻クラフト体験、カフェ自休自足「りしりに恋し店」、コミュニティFM「FMわっぴ〜」特別会場が併設され、町民や観光客などが集う交流の場です。

ギャラリーには、「利尻海藻押し葉」の作品のほか、古民具を展示した「渡邊商店タイムスリップギャラリー」、そして中庭には石蔵文化ギャラリー「海…エメラルド」があり、利尻町にゆかりの深い、押し花コ



約130年前に開業の海産問屋カネジョウ渡邊商店を改築した島の駅「海藻の里・利尻」



カフェ自休自足「りしりに恋し店」



海藻押し葉クラフト体験スペース



「渡邊商店タイムスリップギャラリー」の通路に並ぶ古民具



石蔵文化ギャラリー「海…エメラルド」



上皇・上皇后陛下・両陛下献上作品製作記念「利尻海藻押し葉オマージュ作品展示室」



オマージュ作品『藻花の郷〜夕日』

ラージュ作家「たけだりょう」さんの作品や、詩人「原子修」さんの作品などが展示されています。また、両陛下の献上作品製作を記念した利尻海藻押し葉オマージュ作品展示室が新設されています。

「利尻海藻押し葉」は、平成11年、利尻町開基100年のイベントで、押し花教室の講師として利尻島を来訪した「たけだりょう」さんが、海岸で拾い集めた海藻等を素材に作品を製作、当時の町長に贈ったことがきっかけと伺いました。

多様な色彩、形状、透明性がある海藻を幾重にも重ね合わせることでグラデーションが表現できるなど、これまで廃棄するだけの海の厄介者はアート素材という新たな価値に生まれ変わることが分かったのです。これを契機に平成13年「海藻押し葉里づくり実行委員会」が設立され、官民が力を合わせ資源蘇生に取り組みました。そして「利尻海藻押し葉」を広く普及させるため、平成16年、最初のコンクールが開催され、その後のコンクールは、町の節目の年に開催されています。平成19年に委員会をNPO法人化し、「利尻海藻押し葉」を利尻島の独自文化として普及、発信しています。



利尻町交流促進施設「どんと」1階で展示する「利尻海藻押し葉押し花融合コンクール」の応募作品

利尻町開基120周年の節目にあたる2019年の全国コンクールは、平成から令和へ時代が変わった幕開けに相応しく、「新しい和の時代」がテーマとされました。参加募集は、令和元年7月1日～31日まで行われ、主催側から提供される海藻パックを使用（一部でも可）した作品が提出されます。使用する「海藻パック」は、同センターの会員8名が、海岸に打ち寄せられた海藻を集めたものを使用しています。採取後の海藻は、真水で塩抜きし、形を整え専用の乾燥マットを使って数日間プレスしたものを素材として用意しています。その一つひとつは手間のかかる作業ですが、20年の技術の蓄積が作品の品質につながっています。

今回は、沖縄、九州、広島など、全国から200点の応募があり、北海道知事賞、利尻町長賞など入選11点と佳作25点の計36点が選ばれました。応募作品は、利尻町交流促進施設「どんと」の1階フロアで、令和元年9月21日～29日まで展示されました。展示には、資源蘇生のまちづくりを推進する団体らしく、昆布を乾燥する際に使用する網棚が利用されました。

既に応募作品の展示は終了しましたが、入賞作品は同センターが事業運営する離島キッチン「札幌店」の他、「日本橋店」での展示会が検討されています。年間14万人が訪れる利尻島では、近年、アジアやヨーロッパからの外国人客も増え、「島の駅」にも年間5,000人が訪れて、カフェやギャラリー鑑賞、海藻クラフト体験などを楽しんでいます。

島を訪れる機会がない人も、展示会などで「利尻海藻押し葉」の作品を鑑賞して、利尻島の歴史や新たな独自文化を感じていただければと思います。



「利尻海藻押し葉押し花融合コンクール」の応募作品展示。昆布漁で昆布の乾燥に使用する網棚を利用して作品を展示